

# 「臨床実習感想文」

実習施設：上溝整形外科リハビリクリニック

実習期間：平成 28 年 5 月 23 日～7 月 7 日

仙台青葉学院短期大学 理学療法学科 3 年

小松 佳路

この度は、7週間に渡る臨床実習の機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。私は大学入学当初から整形外科領域にとっても興味がありました。今回の実習が決まった時、その領域に対して専門的に深く学べる機会だと思い、大変心待ちにしておりました。

今回の実習に当たり、前実習での反省を踏まえ、検査・評価方法の実技練習をしたり参考書を読んだり、日々学習に励んできました。そのため、基本的な理学療法評価を行うことができ、また指導者から頂いたフィードバックを理解することに役立ちました。実際に評価から治療までの一連の流れを実施するのは今回の実習が初めてであり、自分が行う治療が患者様に対して本当に効果的であるか、常にクリティカルシンキングを行ってきました。しかし、動作分析を始めとした的確な思考と迅速な処理、適切な評価のもとに考える治療計画を円滑に実施する事は敵いませんでした。指導者をはじめとした理学療法士の姿を見て、そのことを強く感じました。また、クリニックの特性上、限られた時間の中で必要な評価を厳選して行う必要があります。短時間で患者様の機能的問題点を把握して治療を実施することがいかに大切であるかということを実感しました。行う治療に対して限りない自信を持つためには、問診による情報収集と正確な評価による問題点の抽出ができることが必要です。そのためには、基礎となる解剖学や運動学の知識が必須ですが、自分が行ってきた学習では到底足りませんでした。今回の実習で、自分の知識・技術として何が足りないのかを知ることができたことは、私にとって大きな財産となりました。それを踏まえ、今後に向けてより一層勉学に励んでいきたいと思えます。

診断としては同じ疾患名であっても、病状の程度は異なります。加えて、患者様の病前ADLや残存機能を踏まえると、患者様によって治療選択は異なります。さらに、理学療法士によって治療に対する考え方が異なるため、治療手技も異なってきます。そこが机上の学習では絶対に学べない難しい点であり、この仕事の奥深さであり面白さだと改めて感じました。実習でしか学べないことや、実際に患者様と出会うことで気づかされることが多くあったため、毎日が新しい発見と学びだらけでとても充実した実習生活となりました。先生方が私のレベルに合わせて親切に分かりやすく指導して下さいだったため、知識や考え方が理解・吸収しやすく、担当させていただいた患者様への応用を利かすことができたのだと思えます。おかげ様で担当患者様の治療の実践を行うことができました。

クリニックでは毎日患者さんが来てくれるわけではありません。そのため自主練習という形で運動を指導する必要があります。その際、難しい説明や運動では目的とした効果を発揮することができません。理学療法士は生活動作や身体機能の学習だけでなく、人に伝える精度を高めることも要求されているのだと感じました。私も皆さんのような理学療法士になれるように日々勉学に励み、グループ学習などを通してインプットだけでなくアウトプットを行って、教え伝える技術も同時に磨いていきたいと思えます。

あっという間に過ぎた7週間ではありましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。これもひとえに上溝整形外科リハビリクリニック、田名整形外科クリニックの職員の皆様、見学・ご協力いただいた患者様のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。